

我せこにまづ告やらん梅の花あかぬ匂ひをきてもみるかに

〔書言字考節用集六〕生植好カク文ブ木ゴク梅一名晉武帝好文四時隨之開

〔臥雲日件錄〕寶德四年壬申二月六日晚聞等阿來報少納言來尋未知誰某迎之則大外記蓋遷少納言也又及天神之事名梅曰好文木有本據否或曰天神詩有之又曰白樂天來日本與住吉大明神相逢樂天作詩有白雲如帶繞山腰之句蓋俗說未見所出

〔三養雜記四〕好カク文ブ木ゴク

梅を好文木といふことは軒端梅の謠曲にありて人の知ことなれども唐土の書にはたえて見えざることなり臥雲日件錄にも見えたればふるく故事とすることおもはれたりさてその來所は謠古抄に好文木晉起居注云哀帝讀書則四時隨之開華故好文木と云なりまた東見記に梅云好文木故事在晉起居注晉武好文則梅開廢學則梅不開云々とあり武帝哀帝いづれか是なりや說郛などにも起居注はくさく收めたれど好文木の事は見えす

〔源氏物語湖月抄六〕末摘花花政事要略衛門府風俗歌云多々良女の花の如加以禰利好牟夜滅紫色好牟夜たゞらめの花はたゞむめの花といへることをあやまれるなるべし宗祇云うたひものにはたゞらめの花といふをたゞ梅の花とかへて源はのたまへりかひねりとは色紅也末つむの鼻の色の赤きをいはんため也

〔比古婆衣三〕たゞらめの花

玉の小櫛に件のたゞらめ花のとあるを論ひてこれはたゞらめの花のと有しを此名きなれぬ故にらをうの誤ならむと思ひてさかしらに改めつるなるべしたゞらめを梅とかへてうたふべきよしもなきうへにたゞといふことも穩ならざるをや注にたゞらめの花といふはたゞ